

2013年8月19日 日本教育心理学会第55回総会  
自主シンポジウム「教科学習における理解を深める学び  
ー実生活に活用できる学ぶ力の育成に向けてー」

# 子どもの学びを促す 説明活動のあり方

小樽商科大学 辻 義人

# 本報告の概要

- ▶ 教育場面における説明活動  
→ 科目横断的に重要な活動
- ▶ 児童の読み手意識の発達  
→ 4年生から「読み手意識」に変化あり
- ▶ どのように読み手意識を指導するか？  
→ 明確に「誰が読むか」を設定する  
読み手の立場を経験させる

# 教育目標と説明活動の関連

新学習指導要領(H23~)

- ・知識基盤社会
- ・グローバル化



新しい知や  
価値の創造



PISA型読解力

- ・テキスト理解と利用
- ・熟考して取り組む



効果的な  
社会参加



自分で考え判断し  
表現すること

# 教育全体に関わる「説明」

## 小・中学校の教育内容改善のポイント

新学習指導要領の実施により、小・中学校の教育内容が改善します

### 言語の

言語活動は、子どもたちが  
・体験から  
・事実を正  
・概念・法則  
説明したり  
・情報を分  
ような学習  
そのため、  
論述を行  
たとえば  
国語の時間  
・経験した  
経験を活用  
社会の時間  
・社会的な  
したり自分  
算数・数学  
・言葉、教  
伝え合う活  
理科の時間  
・自ら仮説  
科学的な  
美術の時間  
・作品に  
総合的な学習の時間では

## 言語の力をはぐくみます

言語活動は、知的活動 **表現** コミュニケーション **評価** 情緒の基盤となるものです。  
子どもたちの思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、例えば、

- ・ 体験から感じ取ったことを表現する
- ・ 事実 **伝達** し伝える
- ・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする **説明**
- ・ 情報を分析・評価し、

- ・ 課題について、構想を立て実践し **評価**
- 改善する **伝え合い**
- ・ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考 **論述**

ような学習が重要です

各教科で「言語の力」を高める学習  
→ 考える・意見を持つ・伝えることを重視

・ 問題の解決や探究活動の過程において、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を行います

# 「言語活動」の認識変化



言語活動＝あらゆる学習の基礎

アクティブラーニング、反転学習、ラーニングピラミッド(?)

# 説明と「学習者の学び」

- ▶「説明できない」学び  
理解できていないと説明できない
- ▶「相手に説明する」学び  
伝えるべき重要なポイントを考える
- ▶「お互いに説明し合う」学び  
相手の説明を聞いて学ぶ  
(さらに、説明する方法を学ぶ)

# 「わかりやすい口頭説明」研究

## ▶ わかりやすい口頭説明のコツとは？

「解決できなかったPCTラブルが、  
詳しい人に聞いたらすぐ解決した」

## ▶ わかりやすい説明の土台は「対話」

- ① 説明者は聞き手の状況を推測する
  - ② それに合わせた説明を投げかける
  - ③ 反応を見て聞き手の情報を更新する
- 【説明者の情報処理モデル】



# 「説明手段」と先行研究

表 説明文書・口頭説明の違い(岸, 2007)

	説明文書	口頭説明
説明対象	?	○
即時確認	×	○
役割交代	×	○
記録	○	×
【先行研究】	多い	少ない

# 「読み手意識」の発達と指導

読み手に対する配慮＝「読み手意識」

研究1: 児童の「読み手意識」の発達  
→どのように説明が変化するのか？  
(辻・岸・本田, 2008)

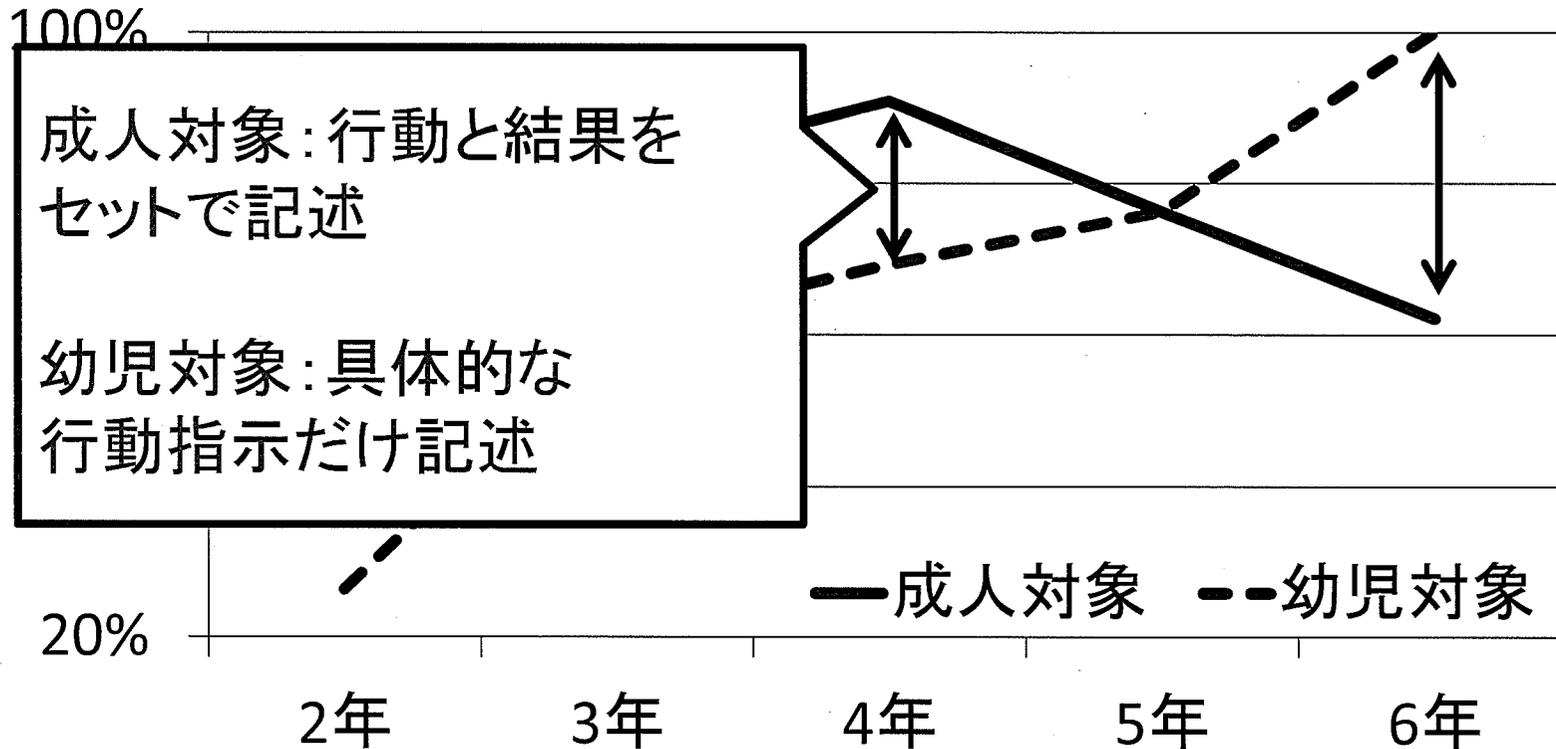
研究2: 「読み手意識」を指導する方法  
→読み手意識の構成要素から  
(岸・辻・靱山, 2012)

# 研究1:

## 児童の「読み手意識」の発達

- ▶ 児童は読み手に合わせて、どのように説明の表現を変化させるのか？
- ▶ 2～6年生に校内案内文作成  
読み手は[成人・幼児]の2条件
- ▶ 結果の明示・注意喚起・否定明示・  
詳細説明・メタ説明などの出現率比較

# 「結果の明示(A→B)」の出現割合 (例:階段を登ると右側が音楽室です)



## ★4年生からの心境変化

成人対象: 結果まで書く必要はない

幼児対象: 結果を書いた方が親切

# 「わかりやすい説明文」の特徴とは？ （大学生に評定させた結果より）

	成人対象	幼児対象
a.結果の明示	○	○
b.注意喚起	[Aします]よりも [AするとBです]の方が わかりやすい	
c.否定の明		
d.詳細説明		
e.メタ説明		○
f.修辞（比喩等）	「AするとBです」に加えて [BはCです]の追加 （例：ドアは緑色です）	
g.表記（ルビなど）		

（学年進行に伴い、わかりやすさ評価は向上）

# 「読み手意識」の発達のまとめ

- ▶ 「読み手意識」は4年生から  
読み手に合わせた説明の使い分け  
成人：目的志向のシンプルな伝達  
幼児：付加情報で親切的な伝達
- ▶ わかりやすい文章は「結果が見える」  
[Aしてください]だけではなく、  
[AするとBです]の評価が高い  
特に幼児には付加情報で丁寧に

## 研究2:

### 「読み手意識」を指導する

- ▶「説明文を書くときは、読み手のことを考えて書きましょう」  
→抽象的すぎて指導しにくい
- ▶「読み手意識」を高めるには、  
具体的にどんな指導が必要なのか？  
(構成要素からの検討)

# 「読み手意識」の構成因子

- ▶ 「説明で意識すること」 35項目  
→ 因子分析によるグループ分け

- ▶ 読み手意識を構成する4因子

説明意識： 相手の反応を予測

書き手意識： 書く場面での注意

メタ理解： 説明の自己点検

工夫実践： 比喩や例示など

→ これでわかりやすい文章が書ける？

# わかりやすい文書の特徴

▶ わかりやすい文書を書くには、  
どのような要素に注目すべきか？

	わかりやすさ 上位群	わかりやすさ 下位群
説明意識	多い	少ない
書き手意識	—	—
メタ理解	—	—
工夫実践	多い	少ない

# 「読み手意識」指導のまとめ

- ▶ 読み手意識を構成する4因子  
説明意識・書き手意識・メタ理解・工夫実践

- ▶ 根拠が得られた指導指針  
説明意識：読み手は誰なのか？  
→「参観に来る保護者に書きましょう」

- 工夫実践：比喻や例示の工夫は？  
→「読み手の興味や関心に合わせる」

# 研究1 & 研究2のまとめ

## 【研究1】

- ・「読み手意識」獲得は4年生から
- ・「Aします」でなく「AするとBです」が重要
- ・成人にはシンプル、幼児には安心情報

## 【研究2】

- ・「読み手意識尺度」からの検討
- ・相手の反応を予測して表現を変える
- ・自分なりの表現、相手の関心を引く



説明者の情報処理モデル(辻, 2010)

# 教育場面での説明指導(案)

- ▶ 読み手は誰かをはっきりさせる  
→ 他県の小学校のお友達、家族など
- ▶ 読み手に合わせた表現の指導  
→ 大人にはシンプル、幼児には丁寧に
- ▶ 「書くだけ」でなく「読み合う」指導  
→ 読み手の立場を経験すること  
説明の自己点検とピアレビュー

# 本報告のまとめ

- ▶「伝えること」「説明すること」はあらゆる教科で重要な活動である
- ▶4年生から「読み手意識」が獲得される
- ▶読み手意識の指導に際しては、「明確な読み手の設定&表現」「自己点検と相互評価」が望ましい